

夢がある。
技術がある。
未**来**ができる。

OKURA REPORT

第104期 株主通信

2023年1月1日～2023年12月31日



大倉工業株式会社

証券コード 4221

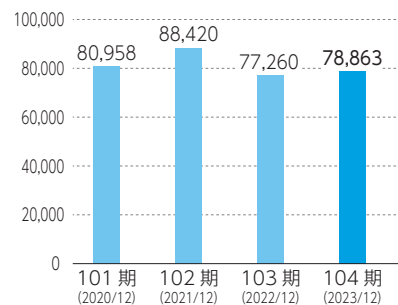
株主の皆様へ



代表取締役
社長執行役員
神田 進

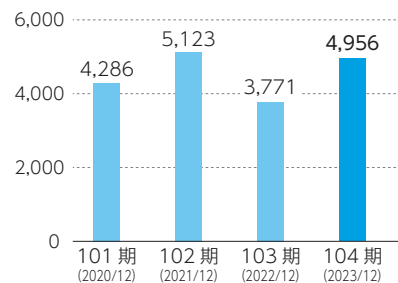
売上高の推移

(単位:百万円)



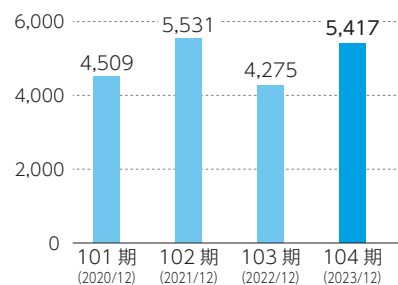
営業利益の推移

(単位:百万円)



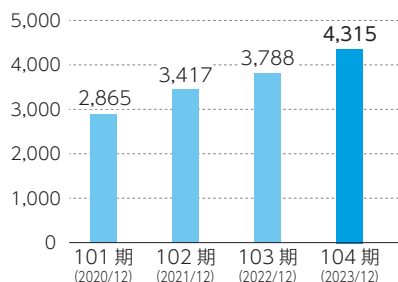
経常利益の推移

(単位:百万円)

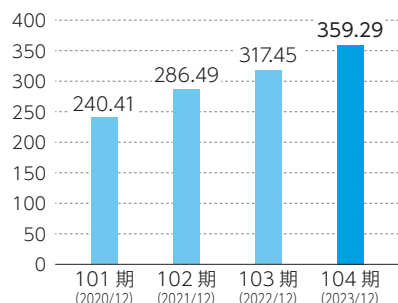


※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

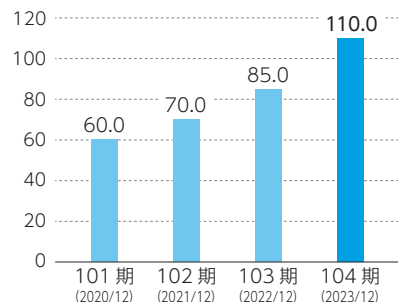
親会社株主に帰属する当期純利益の推移 (単位:百万円)



1株当たり当期純利益の推移 (単位:円)



1株当たり配当額の推移 (単位:円)



※2022年及び2023年は「収益認識に関する会計基準」を適用した数値です。

**株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り
厚くお礼申し上げます。
「第104期株主通信」を皆様にお届けするにあたり、
一言ごあいさつ申し上げます。**

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、国内経済活動の正常化の進展や、インバウンド消費が増加していることに加えて、各種経済政策効果などもあり、穏やかな回復基調で推移しました。また、先行きにつきましては、賃上げの広がりやインバウンド需要の増加が続くことへの期待感があるものの、世界経済の減速に伴う需要減少やコスト増加などが懸念されることから、今後を見通すことが依然として困難であり、不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、新規材料事業において大型液晶パネル向け光学フィルムの受注が増加したことなどにより、当連結会計年度の売上高は788億6千3百万円(前年同期比2.1%増)となりました。

利益面では、売上高の増加に加えて、生産性の向上によるコスト削減に努めたことなどにより、営業利益は49億5千6百万円(前年同期比31.4%増)、経常利益は54億1千7百万円(前年同期比26.7%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、保有する投資有価証券の売却に伴う投資有価証券売却益を特別利益に計上したことなどにより、43億1千5百万円(前年同期比13.9%増)となりました。

当社は、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、業績や事業の将来展開に必要な備えなどを総合的に勘案し、安定的な配当を行うことを基本方針とし、配当性向30%以上の継続を目指しております。この方針のもと、第104期の期末配当金につきましては1株当たり85円と予定しておりましたが、2023年12月期の業績を踏まえ、株主還元の充実を図るため25円増配し、1株当たり110円といたしました。

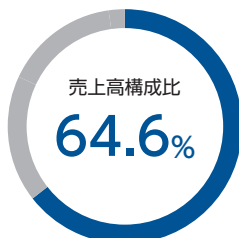
我々は、現在直面している物価上昇によるコストの増加や需要の減少、人手不足の深刻化等、様々な難局を乗り越え、次の成長を目指した取組み、投資を行うことで収益を上げ、株主様への還元を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月

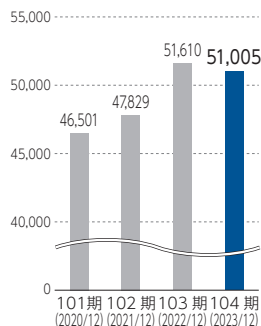
事業別概況(連結)

合成樹脂事業

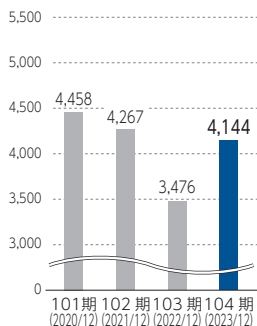


政府によるコロナ対策の緩和措置や円安によるインバウンド需要が期待されるなか、拡販活動に努めました。生活必需品を主とした相次ぐ値上げによる消費者の購買意欲低迷が影響し、食品用途を中心とした包装用フィルムにおいて販売数量が減少しました。また、光学・半導体用途の工業用プロセスフィルムにおいても市場の悪化による在庫調整の影響を受けたことにより、販売数量が低調に推移しました。一方、原料価格をはじめとするコスト上昇分の製品価格への転嫁を推し進めたことにより、売上高は510億5百万円(前年同期比1.2%減)にとどまりました。営業利益は、製品価格の上昇に加えて生産性の向上などのコスト削減に努めたことにより、41億4千4百万円(前年同期比19.2%増)となりました。

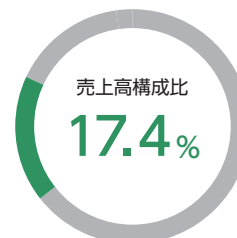
売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)

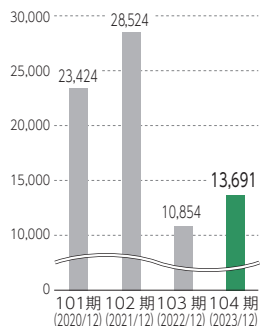


新規材料事業

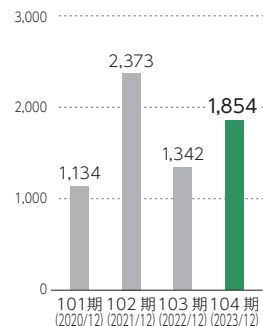


大型液晶パネル向け光学フィルムの受注が増加したことに加えて、自動車用途などの機能材料も好調に推移したことから、売上高は136億9千1百万円(前年同期比26.1%増)となりました。営業利益は売上高の増加に加えて、歩留り改善に注力し生産性の向上に努めた結果、18億5千4百万円(前年同期比38.1%増)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)

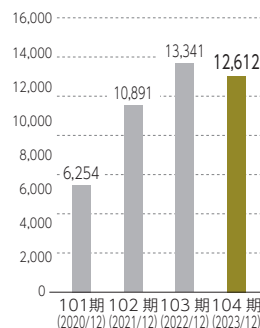


建材事業

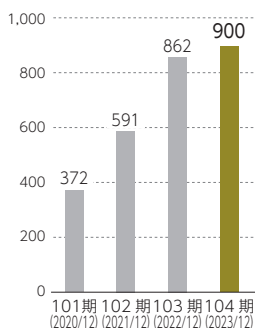


新規顧客獲得や既存顧客へのアプローチに傾注し、基幹事業であるパーティクルボードの販売量は維持しましたが、新設住宅着工戸数の減少が顕著であった四国を主商圏とする木材加工事業において大幅に販売数量が減少したことなどにより、売上高は126億1千2百万円（前年同期比5.5%減）となりました。営業利益については、引き続きユーティリティコストが増加しているものの、パーティクルボードの安定生産を継続したことなどにより、9億円（前年同期比4.5%増）となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)

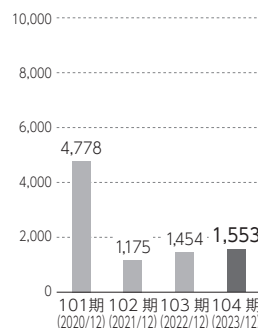


その他

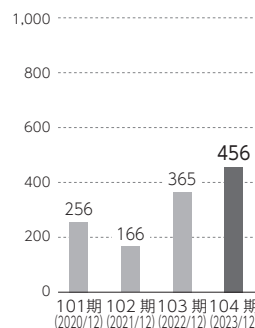


ホテル事業で新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、宿泊や宴会が回復したことや情報処理システム開発事業が堅調に推移したことにより、その他全体の売上高は15億5千3百万円（前年同期比6.8%増）となりました。営業利益はホテル事業の売上高の増加などにより、4億5千6百万円（前年同期比24.8%増）となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

※2022年及び2023年は「収益認識に関する会計基準」を適用した数値です。

※2021年から、㈱オークラハウス、㈱オークラプレカットシステムの売上高及び営業利益を、その他関連事業から建材事業に変更しております。

第104期連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

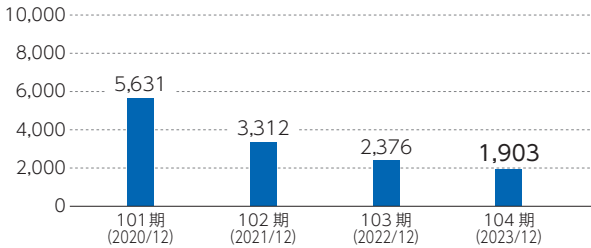
(単位: 百万円)

科 目	103期末 2022年12月31日現在	104期末 2023年12月31日現在
資産の部		
流動資産	50,640	50,947
現金及び預金	8,448	7,806
受取手形	3,324	3,011
売掛金	17,473	18,702
電子記録債権	8,325	8,189
商品及び製品	5,694	5,292
仕掛品	1,263	1,224
原材料及び貯蔵品	4,611	4,967
販売用不動産	206	291
その他	1,292	1,461
貸倒引当金	△0	—
固定資産	39,594	49,325
有形固定資産	28,970	35,616
建物及び構築物(純額)	11,981	12,032
機械装置及び運搬具(純額)	7,415	8,292
土地	6,276	6,278
建設仮勘定	2,868	8,491
その他(純額)	428	522
無形固定資産	642	888
投資その他の資産	9,981	12,820
投資有価証券	9,141	11,291
繰延税金資産	234	130
その他	605	1,398
資産合計	90,234	100,272

科 目	103期末 2022年12月31日現在	104期末 2023年12月31日現在
負債の部		
流動負債	29,509	34,075
支払手形及び買掛金	18,179	17,020
電子記録債務	23	672
短期借入金	1,549	1,529
1年内返済予定の長期借入金	483	373
未払金	4,306	5,382
未払法人税等	797	765
設備関係電子記録債務	9	1,893
その他	4,159	6,437
固定負債	5,133	5,327
長期借入金	343	—
繰延税金負債	0	714
退職給付に係る負債	3,968	3,789
その他	821	823
負債合計	34,643	39,403
純資産の部		
株主資本	51,956	55,562
資本金	8,619	8,619
資本剰余金	9,071	9,105
利益剰余金	35,094	38,394
自己株式	△829	△557
その他の包括利益累計額	3,613	5,281
その他有価証券評価差額金	3,507	5,018
為替換算調整勘定	220	236
退職給付に係る調整累計額	△114	27
非支配株主持分	20	24
純資産合計	55,591	60,869
負債純資産合計	90,234	100,272

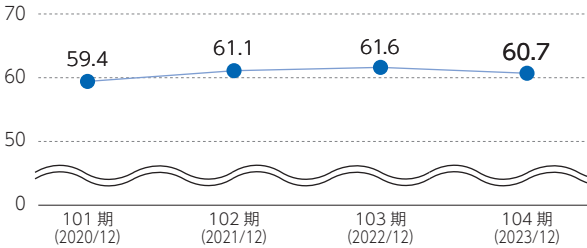
借入金の推移

(単位: 百万円)



自己資本比率の推移

(%)



連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	103期 2022年 1 月 1 日から 2022年12月31日まで	104期 2023年 1 月 1 日から 2023年12月31日まで
売上高	77,260	78,863
売上原価	63,944	63,974
売上総利益	13,316	14,888
販売費及び一般管理費	9,544	9,932
営業利益	3,771	4,956
営業外収益	576	528
受取利息	7	8
受取配当金	294	312
為替差益	103	61
雑収入	170	145
営業外費用	73	67
支払利息	21	17
支払手数料	29	36
雑損失	22	13
経常利益	4,275	5,417
特別利益	1,542	433
固定資産売却益	1,542	4
投資有価証券売却益	—	428
特別損失	539	161
固定資産除売却損	108	158
減損損失	429	—
投資有価証券売却損	—	1
特別退職金	1	0
税金等調整前当期純利益	5,278	5,688
法人税、住民税及び事業税	1,406	1,379
法人税等調整額	85	△8
法人税等合計	1,492	1,371
当期純利益	3,785	4,317
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△2	2
親会社株主に帰属する当期純利益	3,788	4,315

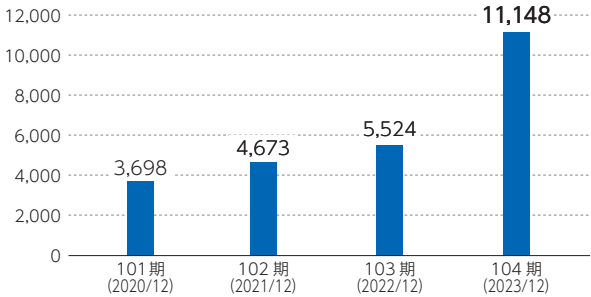
連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	103期 2022年 1 月 1 日から 2022年12月31日まで	104期 2023年 1 月 1 日から 2023年12月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	3,702	8,403
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,310	△7,897
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,773	△1,194
現金及び現金同等物に係る 換算差額	63	46
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△1,317	△641
現金及び現金同等物の 期首残高	9,765	8,448
現金及び現金同等物の 期末残高	8,448	7,806

設備投資(工事ベース)の推移

(単位：百万円)



※キャッシュ・フロー計算書は支払ベースで記載するのに対し、
本グラフは工事ベースで表示しております。

※記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

製品紹介

防臭袋「NIOGUARD®」



「臭い」を解決する袋として、市場には消臭袋と防臭袋の2種類のタイプがあります。消臭袋は、消臭剤を使用した単層フィルムが多く、消臭剤が臭いをキャッチし、外部に流出させない性質を持っています。しかし、フィルム中に多くの消臭剤を入れることができないため、消臭効果の持続には限りがあります。

一方、防臭袋はバリア層を設けた多層で、臭いをブロックし、外部に臭いを流出させない性質を持っています。消臭袋と異なり、比較的長期間の保香性を有することができる特徴を持っています。

この度、当社は、赤ちゃんの使用済みおむつや使用済み生理用品、ペットの糞便や生ごみの臭い漏れなどを防ぎたいというニーズに応えるため、加工メーカーとしてこれまで培った技術力で、コンシューマー向け製品となる防臭袋「NIOGUARD®」を開発し、2023年7月より、電子商取引(EC)サイトを利用した販売を開始しました。同製品は五層構造で、中央の特殊フィルム層が臭いを

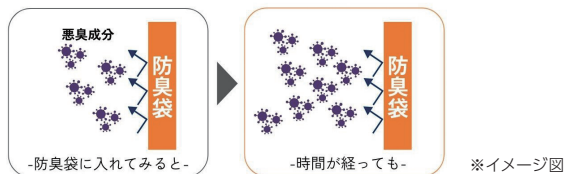


透過させない仕組みになっています。この特殊フィルム層は、エンジニアリングプラスチックを採用し、当社が独自開発しました。「NIOGUARD®」は、開発の背景にあるニーズ以外に、災害時の臭い問題に対しても利用できると考えています。

ECサイトでは、商品ラインアップとして白色・ラベンダー色それぞれSサイズ(20cm×30cm)・Mサイズ(23cm×38cm)の4種類を展開しています。

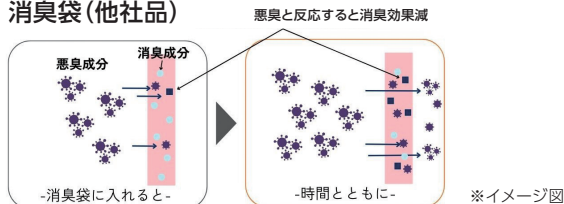
当社グループは、今後とも会員制交流サイト(SNS)やECサイトでの販売を通して消費者ニーズを探り、消費者向けの製品の開発に注力してまいります。

防臭袋 (NIOGUARD®)



- 性質：臭いをブロックし、外部に臭いを流出させない
- 特徴：バリア層を設けた多層構成にすることで、比較的長期間の保香性を有することができる

消臭袋 (他社品)



- 性質：消臭剤が臭いをキャッチし、外部に流出させない
- 特徴：フィルム中に大量の消臭剤を入れることができないため、消臭効果の持続には限りがある



購入先はこちら ▶

Amazon
(Sサイズ)



楽天市場
(Sサイズ)



Mサイズもあります

※「Amazon」はAmazon Services LLC及びその関連会社の商標です。
※「楽天市場」は楽天グループ株式会社の登録商標です。

新取締役ごあいさつ



社外取締役(監査等委員)

さいとう しげのり
齋藤 繁範

この度、当社の監査等委員である社外取締役に選任されました齋藤繁範です。私は、住友化学株式会社において人事、事業企画、経営管理等の様々な業務に携わってきました。昨今、事業環境の変化が激しさを増す中、サステナビリティへの対応が求められる難しい時代となっておりますが、外部の客観的な視点を持ちながら、当社の事業運営について、コンプライアンス順守、コーポレート・ガバナンス確保等の監査・監督に取り組みたいと考えております。

また、これまでの経験を活かし、他の監査等委員や内部監査部門とも連携しながら、事業運営における健全性・適切性に関し、必要な指摘・助言を行うことを通して、当社の長期的な発展に貢献したいと考えております。

微力ながら、当社の持続的な成長に向けて尽力する所存ですので、株主の皆様のご指導とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

グループ会社新社長ごあいさつ



株式会社九州オークラ
代表取締役社長

かさい ひろふみ
笠井 博文

株式会社九州オークラは2004年9月に大倉工業のグループ会社の先駆けとして発足し、2024年に20周年を迎えます。

これまで、地域に密着した事業活動を社員が一丸となり取り組んだ結果、九州エリアで高いシェアを維持しております。今回、社長に就任するにあたり改めて責任の重さを感じております。

企業に対して求められている、気候危機や資源枯渇、生物多様性の喪失、プラスチック汚染等の環境問題に関する社会的課題の解決に対応すべく常に全力で挑戦し続けたいと思います。一方で、少子化による人材不足も顕在化しており、当社においても今後憂慮すべき課題と捉えております。

『人ひとりを大切に』『地域社会への貢献』『お客様を第一に』の経営理念のもと従業員とともに社会貢献を果たし、皆様に愛される九州オークラを目指して、事業運営を行ってまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



株式会社ユニオン・グラビア
代表取締役社長

いまむら たけし
今村 武司

株式会社ユニオン・グラビアは、1992年に大倉工業株式会社のグラビア印刷製版部門が分社化し、設立されたグラビア印刷版ロール製造会社です。現在では四国地区を中心に、西日本エリアの多くの印刷コンバーター様に印刷版ロールをご使用いただくまでに成長してまいりました。

デザインを形にしていく中で、製版の仕事はいかに「お客様のご要望に沿った製品をタイムリーに提供できるか」が重要であると認識しています。今後も営業部門、デザイン・画像処理部門、製版部門が一体となってお客様のご要望に応えていくとともに、お客様の課題解決に少しでも役立つ提案ができるよう努めてまいります。

グラビア印刷業界を取り巻く環境は、環境問題やデジタル化により激変しています。当社はこれからも地球環境の保全に配慮した、より良い製品・サービスを提供することで「お客様とともに印刷コンバーター業界の発展に貢献し続ける企業」を目指し努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

令和5年度四国地方発明表彰を受賞

（公社）発明協会主催の令和5年度四国地方発明表彰にて「診療または治療用頭部被覆材（意匠第1700260号）」の意匠創作者である橘課長代理（コーポレートセンター）、塩入担当（新規材料事業部）、大場先生（香川大学）、西山先生（香川大学）、小原先生（香川大学）が発明奨励賞を受賞しました。

本意匠は、香川大学と協働開発した内視鏡用ウイルス感染防御システム「Endo barrier®」の飛沫感染防止フィルムに関するものです。

「Endo barrier®」は、飛沫感染防止フィルムと専用フレームにより、準密閉空間を形成し、陰圧化することで飛沫の拡散を最小限に抑えます。通常、このようなシステムは、患者毎に消毒をする必要がありますが、フィルムに設けられたサイドシール部により、患者毎の消毒を必要とせずとも専用フレームを清潔に保つことができる構造となっています。

また、フィルムには、医療器具の挿入場所がピクトグラムで表示されており、誰でも簡単に理解できるユニバーサルデザインとなっていることから、香川県を中心に全国の医療施設で採用され、医療従事者の方から好評いただいております。



香川県産材や四国地域材を活用した構造用集成材事業の開始

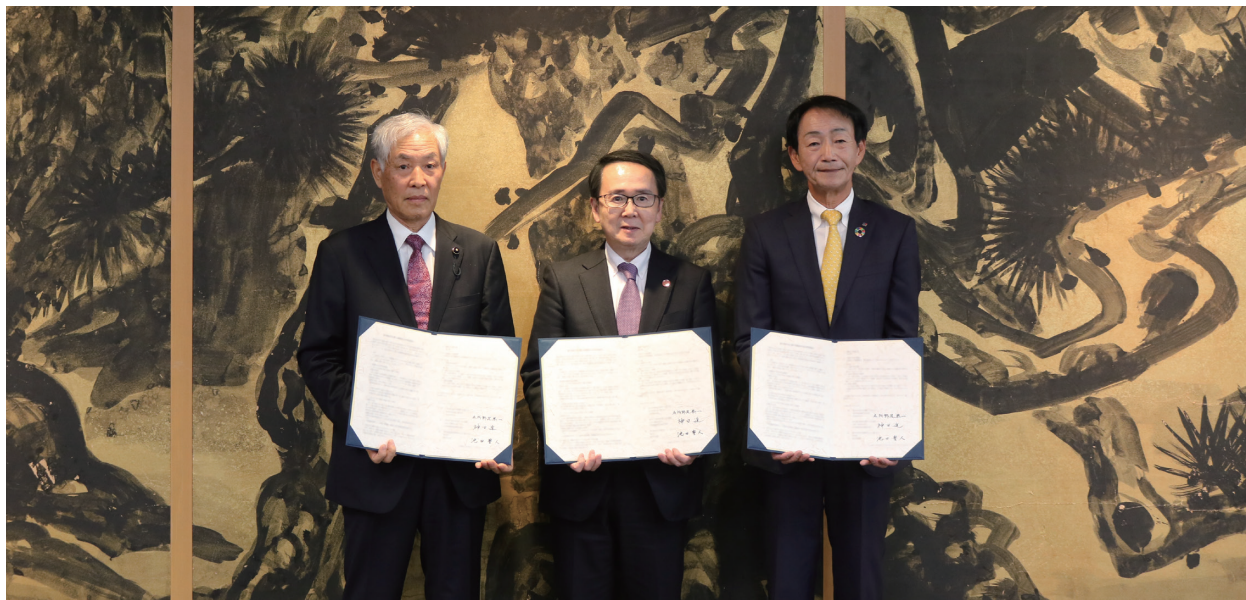
当社は、近年の国産材回帰への転換期の到来・木材利用分野の拡大を踏まえ、脱炭素・カーボンニュートラルへの直接的貢献材料にて社会に寄与するべく、香川県産材や四国地域材を活用した構造用集成材等の事業の開始を決定いたしました。

集成材は節の部分などを取り除いた板状の木材を接着剤で貼り合せて積層したもので、割れや反りが少なく、品質が安定していることから住宅の柱や梁などの構造材に使われます。

この事業を開始するにあたり、ナイス株式会社及びその子会社のウッドファースト株式会社と、香川県及び香川県森林組合連合会とそれぞれ協定を締結いたしました。これらの協定の締結により、原木から集成材販売までの一気通貫のサプライチェーンを構築し、香川県産材や四国地域材の積極的な流通・利用の促進、森林資源の循環利用を行うことで持続可能な社会の実現に貢献していきます。

12月15日には香川県庁において、香川県と香川県森林組合連合会及び当社で協定締結式を行いました。最初に香川県の池田知事、香川県森林組合連合会の五所野尾代表理事会長、当社の神田社長からそれぞれ挨拶があり、神田社長は「2050年カーボンニュートラルの実現や香川県の森林資源の循環利用及び持続可能な森林経営等に貢献していきたい」と締めくくりました。その後、協定書への署名を行い、写真撮影と歓談・質疑応答の時間が設けられ、メディアからの質問に答えつつ、無事に締結式は終了しました。

集成材工場は、三豊市高瀬町^{はらしも}の原下工業団地内に建設し、事業開始は2026年4月を予定しております。



オークラプレカットシステム移転

建材事業のグループ会社である株式会社オークラプレカットシステムが丸亀市昭和町から三豊市高瀬町の工業団地へ移転しました。今後想定される災害時では、同社の木材加工や住宅部材供給機能が重要となることから、被災リスクの小さい当工業団地への移転をかねてより計画しており、1月に移転工事が完了し、2月1日より操業を再開しました。

再開するにあたり、1月31日に株式会社ヒカリ、大倉工業株式会社、株式会社オークラプレカットシステムの3社で竣工式を執り行い、今後の安全操業を祈願し玉串を奉納しました。

この移転によって、より幅広い製品の生産が可能となることから、軸組パネルプレカット事業への転換や、都市等における第二の森づくりに貢献する特殊構造材（CLT等）の加工事業などを手掛け、木材加工供給システムの受け皿となる事業への成長を目指していきます。



株式会社オークラプレカットシステム

〒767-0014 香川県三豊市高瀬町上麻乙333番地1

TEL : 0875-82-9123

ホームページ : <https://okuraprecut.com>

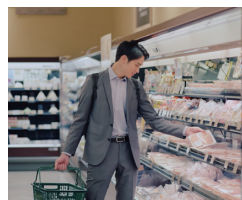
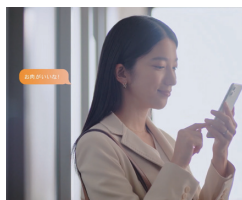


企業PR動画のリニューアル

当社の企業PR動画をリニューアルしました。今回のPR動画は「いい未来の予感」というタイトルで、繋がりのある一つのストーリーを当社の製品を使って3パターンで構成しています。「夢がある。技術がある。未来ができる。」というスローガンを基盤にしつつ、「大倉工業がつくる未来は、生活者の暮らしを便利にする。自然環境を守り、様々な社会課題を解決する。ものづくりを通して、私たちの日常を少しずつ、でも着実により良い未来へ導いている。大倉工業の製品が生み出す新たな価値を“いい未来の予感”として共感してもらう」をコンセプトに制作しました。ぜひ一度ご覧ください。



YouTubeで
ご覧いただけます。



大倉工業株式会社スペシャルごみZEROクエスト in 土器川

瀬戸内の美しい自然を未来に残すために、河川清掃イベント等が計画されたRSK山陽放送のSDGsプロジェクト「瀬戸内から未来へ」に賛同し、10月29日に「大倉工業株式会社スペシャルごみZEROクエスト in 土器川」を開催しました。このイベントに先駆けて、10月17日に、RSK山陽放送の「ライブ5時 いまドキッ!」の中の「SDGs特集」にて、当社の取組みと当イベントの紹介をしていただきました。

イベント当日、快晴で秋晴れの心地よい気温の中、一般参加者と当社従業員あわせて約270名の方が参加し、土器川河川敷を清掃しました。ごみ袋は、当社の環境貢献製品である「かんきょうくん®」と「OKバイオ®」を使用しており、イベントから排出されるごみの処理においても環境に配慮しています。

参加者達が二つのエリアに分かれてごみ拾いを行うと、中には農業等で使われる防獣用ネットや竿等、袋に入りきらない大きなごみもありました。参加者は、普段目を向けないところに多くのごみが捨てられていたことに驚きつつ、自然を感じながら気持ちよく清掃ができ楽しめた様子がうかがえました。また、イベント参加者全員に記念品として、カトラリーセットと当社製品である「NIOGUARD®」(P.7-8でご紹介しています)をプレゼントしました。

このイベントでは、ごみ拾いSNSの「ピリカ」を活用して、ごみ拾いを簡単に記録・発信することで「誰が、どこで、どれだけのごみを回収したか」が見える化できる仕組みになっています。参加者の方にこのイベントで回収したごみを発信してもらうことで、当社の取組みを発端とした綺麗な街づくりに貢献していただきました。当社はこれからも、地域貢献及び地域の活性化活動に一層まい進してまいります。



10月17日放送のSDGs特集は
「RSK山陽放送公式チャンネル」にて
ご覧いただけます。



ドイツ留学生のインターン受入れ

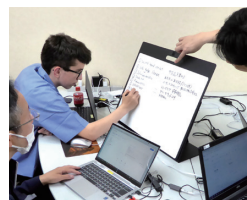
6月5日～6月16日の間、ドイツ・ヴィリッヒ市の高校生:Lasse Jannick Bolten (ラッセ ヤニック ボルテン)さんのインターンシップを新規材料事業部で行いました。

ドイツでは「Praktikum(プラクティクム)」と呼ばれる学生インターンシップ制度が一般的で、職業の内容や構造について知るきっかけになるだけでなく、企業と学生のマッチングとしても利用されています。また、ドイツ・ヴィリッヒ市と丸亀市は2018年に「友情表明」に署名(2023年7月7日「姉妹都市」提携)しており、その縁もあって当社でのインターンシップ受入れとなりました。

ラッセさんはIT分野に興味があり、ギムナジウム(ドイツの教育機関で中学高校に相当)でも情報科学に関する授業を履修しており、複数のプログラム言語(Java、Python)を扱えるそうです。

今回のインターンシップでは、工場見学、外観検査体験、異物分析体験などの製造体験に加え、日本企業の特徴や日本独自のルールなどを学ぶ文化体験、また、ノーコード開発ツールを使って業務アプリを作成するというIT体験をしてもらいました。

日本に来るのは今回が初めてで、慣れないことも多くあったようですが、日本の文化に触れたり、日本独自のものを食べたりと、楽しく過ごせたようでした。また何よりもラッセさんの素敵な人柄で、受け入れた私達も非常に楽しい時間を過ごすことができました。



ドイツ元大統領クリスティアン・ヴルフ氏が来社



ドイツ元大統領であるクリスティアン・ヴルフ氏(写真左から5番目)が11月14日に来社されました。これは、ドイツにある学校と姉妹校提携している藤井学園(丸亀市)の創立100周年記念式典に特別講演で来日され、丸亀市はドイツ・ヴィリッヒ市と姉妹都市提携をした縁もあり、上の記事でご紹介したラッセさんを受け入れた当社に、藤井学園から推薦されて実現したものです。

当日は神田社長と植田事業部長が当社の紹介をしました。新規材料事業部で生産している光学フィルムや、ドイツ製である、建材事業部のパーティクルボード生産機や合成樹脂事業部のインフレーション製膜機を導入していることなどに対して、ヴルフ氏は興味深く聞かれておりました。

会社情報 / 株式情報

会社概要 (2023年12月31日現在)

社 名 大倉工業株式会社
設 立 1947年7月11日
資 本 金 8,619,616,071円

業務内容

- ・各種ポリエチレン製品及びポリプロピレン製品の製造販売
- ・光学機能性フィルム等の製造販売
- ・パーティクルボード及び加工ボード等、加工合板の製造販売、木材加工事業と宅地造成及び建物建築事業

役員 (2024年3月22日現在)

代表取締役会長	高 濱 和 則
代表取締役社長執行役員	神 田 進
取締役専務執行役員	福 田 英 司
取締役常務執行役員	福 田 中 祥
取締役上席執行役員	植 田 智 生
※取締役(監査等委員)	北 田 隆 司
取 締 役(常勤監査等委員)	長 尾 誠 司
※取締役(監査等委員)	馬 場 俊 夫
※取締役(監査等委員)	飯 島 奈 絵
※取締役(監査等委員)	渡 邊 洋 一
※取締役(監査等委員)	齋 藤 繁 範

※社外取締役

株主メモ

決 算 期	毎年12月31日
定 時 株 主 総 会	毎年3月
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日(その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。) 剰余金の配当 期末配当 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公 告 の 方 法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.okr-ind.co.jp)に掲載いたします。ただし電子公告によることができない事故やその他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場

株式の状況 (2023年12月31日現在)

発 行 可 能 株 式 総 数 28,021,600株
発 行 済 株 式 の 総 数 12,414,870株
株 主 数 14,362名

大株主(上位10位) (2023年12月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	883千株	7.30%
住友化学株式会社	819千株	6.77%
オークラ共栄会	599千株	4.96%
株式会社中国銀行	582千株	4.81%
大倉工業従業員持株会	420千株	3.48%
株式会社百十四銀行	384千株	3.18%
日本生命保険相互会社	375千株	3.10%
住友林業株式会社	315千株	2.61%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	289千株	2.39%
三井住友海上火災保険株式会社	271千株	2.25%

(注)当社は自己株式321,546株を所有しておりますが、上記大株主から除いております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

住所変更、単元未満株式の 買取等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

夢がある。技術がある。[未来]ができる。



大倉工業株式会社

本社/〒763-8508 香川県丸亀市中津町1515番地
TEL 0877-56-1111